

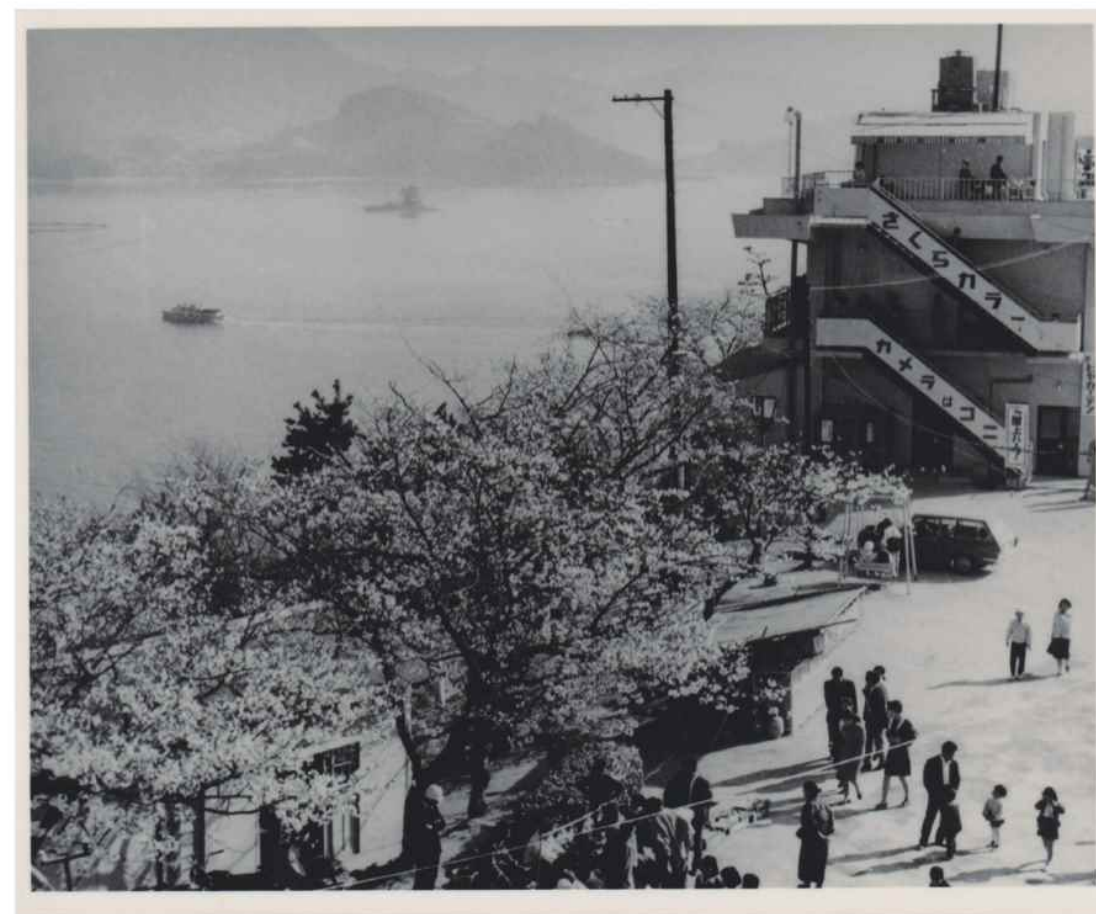
岡山県笠岡市。まちの“いま”を描く、届ける。

カサオチ スリッパ 05

世代をこえて
つなぐ
つづく



Take Free



©YS.YagyuPhotoStudio

昭和40年頃の古城山公園

桜の名所として知られる古城山公園。桜を目当てに多くの人が訪れている。笠岡湾干拓地が造成される前なので、穏やかな瀬戸内海の風景が広がる。



1967年の創業以来、地域のの人に愛され続ける精肉店。「今日はすき焼きにするけえ、ええ肉ちょうだい」「コロッケ揚げて」と、地元の人々がひっきりなしに訪れる。東京の有名店「日山」の系譜を継ぐ、西日本唯一の存在で、昔ながらの対面販売のほか、飲食店、保育園や学校、病院、介護施設への卸売も幅広く行う。

代表を務めるのは、3代目の箱田遥郁さん。初代と2代目の背中を見て育ち、幼稚園の頃から「お肉屋さん」に憧れていたそう。接客のプロを目指すべく、ブライダル専門学校を卒業後、東京や岡山のパ

ひやませいくてん

日山精肉店

—

毎日の食卓を支える

地元民ご用達の肉屋さん

1
4 3 2

1.スジ一本の処理が肉の味を左右すると、手間を惜しまない丁寧な下処理を黙々と行う職人の背中。2.常連さんと会話を交わす遥郁さん。地元の人々の拠り所であり続けたいと対面販売にこだわる。3.名物のコロッケのほか、鶏の唐揚げや串カツなど総菜も豊富にそろえる。4.三世代で店を守る箱田ファミリー。

data
笠岡市二番町3-30
☎ 0865-62-2476
<https://hiyama-group.com>

世代をこえて
つなぐ
つづく



惜しまれつつも暖簾を下ろしてしまう店。
やむをえず衰退してしまう産業や伝統文化。
一つのことを長く続けるって難しい。
そんななかでも歴史と伝統を守り、
次の時代に向けて奮闘している人たちがいます。
変わらないこと、変わっていくこと
どちらも大事にしながら、つなぐ、つづく。





1



2



3



4

しょうやしき 庄屋敷とくら

—
地域住民の想いを結集した
温もりあふれる集いの場

笠岡駅から8kmほど北上し、小高い山に囲まれた新山地区にあるのは、明治期に建てられた庄屋敷土倉邸。2016年から建物を改修し、2021年からは有志約20名の出資からなる、「庄屋敷とくら」の会や「新山地区自治会」をはじめとする地域住民の手で、カフェや宿泊施設、貸し会場として運用されている。「子どもたちが故郷を愛し、将来ここへ帰ってきてくれるよう

に、地域のすばらしさを伝えることが使命。後継者を育て、引き継いでいきたい」と話すのは、新山地区自治会会長の山部明道さん。庄屋敷とくらのは「新山には、自分たちのまちは自分たちで元気にしよう！というパワフルな人がたくさんいる」と話してくれた。

カフェの準備や接客、宿泊客の受け入れや掃除を行うスタッフはほぼボランティア。予約制で弁当の製造にも対応している。決して楽な仕事ではないはずだが、「人と会って話すことや働くことは楽しいし、役割があるって幸せなことなんよ」と驚くほどポジティブ。郷土の味を大切にするために、昔ながらの製法で1年かけて仕込む「はと麦みそ」の製造も手がけている。地域の人たちの強い想いを結集したこの場所が、どのように育ち、変化していくのか、今後も目が離せない。

1. 山部さんと高木さん、『とくらカフェ』で働くみなさん。カフェの営業は金・土曜の10～15時。2. 香りがよくマイルドで飲みやすいオリジナルブレンドコーヒーとケーキのセット500円。3. グラウンドゴルフをプレーした後に毎週訪れるという常連さんのグループ。4. 広い庭も見所のひとつ。

data
笠岡市山口1805
☎ 070-4410-5835
<https://tokura.localinfo.jp>



©YS.YagyuPhotoStudio

やぎゅうしゃしんかん 柳生写真館

—
写真館が時代を超えて
まちにあり続ける理由

国内では写真館の存在が珍しかった1892年に創立し、130年以上の歴史を誇る老舗写真館の5代目を務める柳生晋伸さん。写真を好きになれない時期もあったが、「人に喜びを与える」という写真館の本質的な存在価値に気づき、家業を引き継ぐことを決意した。基本を忠実に守りながら、トレンドを取り入れた新たな変化も必要と、2012年に店舗を大幅リニューアル。若い世代にも写真館に親しんでもらうため、マルシェや夏祭りなどのイベントも開催してきた。

また、自分たちにしかできないことをやるという想いから、2018年西日本豪雨の被災地支援として、浸水や土砂災害で汚れた写真を洗浄するボランティア活動を行った。日本全国の写真館に協力を要請し、次々と殺到する問い合わせに対応。「手探りだったので苦労したが、協力してくれる人の温かさ、写真がその人にとってどれほど大切なものなのかを改めて知った」と晋伸さん。「どれだけ手軽に撮影できるとしても、人生の特別な節目や何気ない日常の一瞬を切り取る写真館が、町にあり続ける理由や価値は必ずある」。次の時代へとつないでいく揺るぎない想いを語ってくれた。

1. 和気あいあいとした雰囲気。晋伸さんとスタッフたち。2. 「やぎふ」の表紙に歴史を感じる1937年の店舗写真。高い撮影技術を誇り、記録写真に多大な足跡を残した2代目により、多くの写真資料が保存されている。3. 4. どんなに便利な世の中になっても、あえて形に残ることが大切と語る晋伸さん。

data
笠岡市十一番町5-5
☎ 0865-63-2161
<https://yagyu-ps.com>



©YS.YagyuPhotoStudio



しらいしおどり 白石踊

—
800 年以上守り継がれる
白石島独自の伝統文化

笠岡諸島で2番目に大きな島である白石島に、古くから伝わる「白石踊」。瀬戸内海で行われた源平合戦の戦死者を弔うために始まったという説や、香川県の塩飽諸島にある念仏踊が変化したものだという説など、起源には諸説あり。白石島ではお盆の時期に先祖の霊を慰め、送り出すための踊りとして、島民たちに大切に守られてきた。

踊りには、男性的でダイナミックな動きの男踊、女性らしさが感じられる女踊のほか、気楽な気持ちで長時間踊るときにブラブラ踊、奴踊、笠踊などの種類がある。衣装や所作がそれぞれに異なる踊り手が一列の



理事の天野正さん

輪になり、口説（くどき）と呼ばれる音頭と太鼓の伴奏に合わせて舞い踊るのが特徴だ。1976年には国の重要無形民俗文化財に指定され、2022年には全国40の踊りとともに、「風流踊」としてユネスコ無形文化遺産に登録された。白石踊会会長の河田さんが父親に聞いた話では、白石踊は年に一度の大イベントであり、若人が集う出会いの場でもあったそう。3日3晩踊りあかし、踊りや口説が上手い者は相当モテたのではないかとのこと。口説をする者は冬の海で潮風を浴びながらのどを鍛え、技術を磨いた。人前で踊るのを恥じて、家でこっそり踊る者を「納戸踊」と揶揄する言葉まであったというのだから、島民たちの白石踊熱がいかに高かった

のかがえる。

若者が島外へ流出したり、島民が減少するにつれて、白石踊が衰退の一途をたどるなか、歴史ある島の伝統文化を守り伝えるため、中心となって普及活動に努めるのが会長の河田さんと理事の天野さん。島の保育施設『くわのみすくすえん』の園児や市内の中学・高校生たちに踊りを指導。笠岡市中央公民館では、月2回の定期練習会を行っている。白石踊が踊られるお盆の期間（8月13日から16日までの4日間）とは別に「島の盆」と題して鑑賞体験ツアーを実施。臨時船に乗って多くの人が島を訪れ、かつてのにぎわいを取り戻しつつあるようだ。県内の高校生が白石踊を踊るバーチャルアイドルを生み出し、世界中のア

ニメ・ゲームファンにPRする、といったユニークな動きも生まれている。

伝統文化と聞くと、どこか堅苦しいイメージもあるが、河田さんと天野さんの考え方は自由でおおらか。「踊り方は100人100様でいい。いろんな人や文化が集まるのが島の魅力なんだから、若い人や島外の人たちともたくさん対話しながら、継承の道を模索し続けたい」と話す。古くからさまざまな人や文化を柔軟に受け入れ、恐れることなく変化してきた島だからこそ、800年もの長きにわたって白石踊は受け継がれてきた。アートや若者文化と融合し、新たな価値を生み出しながら、これからも続いていくのだろう。



会長の河田裕善さん

data
白石踊会
☎ 0865-69-2155
(笠岡市教育委員会生涯学習課文化係)



くねくねと細い山道を上った先にたどり着くのは、週末限定で聞く魚料理が自慢の食事処。営むのは、高島で生まれ育ち、父や兄が漁師という奥良江さんと、結婚後に漁師になった夫の太一 郎さん夫婦。「せっかく漁師を引き継ぐなら、地元の牡蠣や漁師めしが食べられる店をやろう!」と一念発起し、笠岡市の空き家バンクに登録されていた古民家を改装したのは2018年のこと。少しずつ地元漁師の数は減少し、魚の水揚げ量も年々減ってきているが、「笠岡でとれる魚のおいしさを知ってほしい」という想いで、早朝や夜に2人で漁に出

る。自分たちでとってきたものや地元の漁師から仕入れたもの、笠岡産の魚介類のみを提供するという徹底ぶりだ。お盆からはみ出しそうなほどたくさんのお客が並べられた定食は、メインだけでなく小鉢や汁物にまで魚を使用。メバルの煮付けやチヌの南蛮漬けなど、素材の味を存分に生かした調理や味付けで、魚嫌いの子どもも喜んで食べるそう。どれも驚くほど手頃な価格で、「これも漁師の特権!」と夫婦そろって明らかに笑う。地元の恵みをおなかいっぱい平らげる幸せは、一度味わったら忘れられないはず。

タイタイヤ 漁師の店 お食事処 TAITAI 家

笠岡の海と魚を愛する
漁師夫婦が営む食事処

1. 太一 郎さんと良江さん夫婦。2. 築80年以上の趣きある古民家。軒下に揺れる赤いれんがが目印。3. 月曜から水曜までは漁に出る。4. 天ぷら、魚の煮付け、刺身に炊き込みご飯や小鉢、汁物が付いたよくばり定食1,650円は10食限定。魚定食や天ぷら定食もある。冬期限定で牡蠣の食べ放題も実施。

data
笠岡市神島外浦327-2
☎ 0865-67-2366
<https://www.taitaiya.com>



きびやきかまもと 吉備焼窯元

開窯 100 年を超える窯元を
父娘で守り受け継ぐ

1. 真剣な眼差しで作陶する創業者。料理の腕もプロ並みで、冬山でソロキャンプを満喫するなど、遊びにも全力。「世に何か残したいと模索している」と話す。2. のびのびとおおらかな莉加さんの作品。4. 破天荒な父とそれを見守る娘、という2人の関係がとってほほえましい。工房では陶芸教室も実施。

data
笠岡市茂平1365
☎ 0865-66-0321
<https://kibiyaki.jimdofree.com>

1905年に水川豊太郎が開窯し、出生地にちなんで名付けられたという吉備焼。昭和初期には40人を超える職人が花器や火鉢を大量に生産し、昭和天皇にも花瓶を献上するなど広く知られる存在に。戦時下でも窯の火を絶やすことはなく、時代に合わせて大量生産から一品制作の作陶へと移行。100年以上経った今も変わらず、開窯の地である茂平に工房をかまえている。

4代目の創業者さんは、京都・健仁寺の四頭茶会に油滴天目茶碗を奉納したほか、数々の受賞歴を誇る。「創造のヒントは遊びの中にある」と料理やキャンプなど多彩な趣味を持ち、満天の星空や宇宙のようななまこ釉の器などの作品を日々生み出している。その傍らで着々と作陶の腕を磨くのは、娘の莉加さん。幼い頃から作業場で土に触れ、装飾技術の高さは創業者も一目置くほど。「先祖が守ってきた伝統を受け継ぎながらも、手に取ってもらいやすい器、毎日の生活が楽しくなるような器を制作したい」と莉加さん。白色をベースに青や緑の釉薬を重ね掛けした茶碗やコーヒークップなど、女性ならではの視点で生み出されるやわらかなデザインで、吉備焼に新しい風を巻き起こしている。

笠岡っこの おやつ

フルーツショップにしじま 「フレッシュジュース」

等級の高い上質なフルーツだけを取りそろえる果物専門店が、食品ロス削減のため、店内の一角で提供するフレッシュジュースやスムージー。完熟したエクアドル産のバナナ、高梁市で自家栽培しているブルーベリー、県内産のシャインマスカットやいちご、栗&梨など、ラインアップは季節ごとに変わる。余計なものを加えず、厳選したフルーツの香りや甘みをそのままギュッと濃縮。ホイップやアイスクリームのトッピングもあるので、自分好みの一杯を見つけよう。



ジュース550円～、スムージー 650円～



data
笠岡市中央町17-8
☎ 0865-62-3083
📷 fruitshop_nisijima

カサオカ スケッチ

カサオカスケッチは、笠岡のすてきなヒト・モノ・コトを発見し、まちの魅力を届けるプロジェクトです。地元の人々がまちの良さを再認識できるような、近隣エリアの人が好奇心を刺激されるような。笠岡の“いま”を伝え、まちへの愛着を育むことを目指しています。

📷 INSTAGRAM
@kasaoka_sketch



「#笠岡市公式フォトアンバサダー」を中心とするカメラマンが、笠岡のすてきなところ、好きなところを発信しています。フォトコンテストなどのイベントも不定期で開催。

本号の表紙

砂浜で輪になり、調和しながら舞う姿は美しく、圧巻でした。おじいちゃんや子どもに踊りを教え、若手とベテランが共に舞う姿に、受け継がれる伝統の温かさを感じました。世代を超えてバトンをつないでいくことは簡単ではないけれど、とても大切なことだと改めて考えさせられました。

編集後記

取材で出会ったみなさんに共通しているのが、笠岡のまちと人を想う気持ちにあふれていること。だからこそ、地元の人たちに必要とされ、愛されて続けている。人の想いがまちの歴史となり、未来をつくっていくんだと実感しました。笠岡って、なんていいまちなんだ！

カサオカスケッチ 05
2025年3月10日発行

発行 笠岡市政策部定住促進センター
編集 クラモトマオ
デザイン 長友 浩之
写真 西 はる子 (hale)

お問い合わせ
笠岡市政策部定住促進センター
〒714-8601 岡山県笠岡市中央町1-1
Tel: 0865-69-2377 Fax: 0865-69-2376

2024
11.24 sun
10時～16時
シェアアトリエ
海の校舎

イベントレポート! こどもの ぶんかさい

さまざまなクリエイターが集う『シェアアトリエ 海の校舎』で、学び場×遊び場をコンセプトにしたイベント『こどものぶんかさい』が開催されました。備前焼の粘土で動物作り、植物標本のミニフレーム作りといった多彩なワークショップを実施。子どもたちが真剣なまなざしでのづくりに取り組む姿はとてもほほえましく、見ている大人たちも思わずワクワク！ 人力飛行機の世界記録樹立者によるひこうき飛ばしや謎解きクイズラリー、フードブースも用意され、大人も子どもも思いきり学べて遊べるにぎやかな1日となりました。

